

同窓会報

旭川工業高等専門学校同窓会

2002 Dec.

2002年12月15日発行
旭川工業高等専門学校同窓会
会報編集委員会

〒071 8142 旭川市春光台2条2丁目
TEL 0166 55 8000(代)
印刷:中央オフセット印刷(株)

母校創立40周年に寄せて

同窓会長 1M 中尾 義博



今年、母校創立40周年の年であり、学校では『学校だより』を『創立40周年記念特集号』として企画しているので、同窓会長としてそれにふさわしい記事を寄稿して欲しいとの依頼が夏にありました。そこで『創設当時の仮校舎や寮生達のエピソード集』というタイトルで提出し、この10月に特集号ができ上がりました。ただしこれは、在校生とその父兄にしか届きません。そこで、今回は『同窓会報』の会長挨拶に代えてその寄稿文を全文、4500名の同窓生諸君へご披露したいと思います。

創設当時の仮校舎や寮生達のエピソード集

第5代同窓会長 1M 中尾 義博

思い起こせば、我々一期生は40年前(1962'昭和37年)15歳で旭川高専に入学しました。早いもので卒業してから36年目、私達は56歳になりました。この機会につれづれなるままに、昔を振り返ってみたいと思います。

昭和36年の夏頃から、国立高専が旭川に設立か?という報道がされるようになり、秋頃正式に決定しました。国立高専一期校として全国に12校(現在国立54校、公立8校)、北海道は旭川と函館の2校に決まりました。

私事になりますが、当時旭川市立六合中学3年の私は、幼くして両親を亡くしており親戚を転々としておりましたので、経済面と何よりも全寮制に惹かれて「何としても入らなければ、生きられない」と思いました。全道から3400余名集まり、28倍位で全国で3番目の競争率という報道がありました。

さて原田準平初代校長は地球物理学者として大変有名な方であり、また教務主事の大和田望雄先生のお父さんは、あの鉄道唱歌「汽笛一声新橋を...」の作詞者と聞いています。つい最近までおられた物理の名誉教授中村敏明先生は一番若い先生で、16歳の我々には大人に見えましたが、当時24~25歳だと思ふと不思議でなりません。

仮校舎は当時春光町1区1条にあり、現在の大成建設が1900年に建てた第七師団歩兵第27連隊の兵舎で、当時少し立派すぎるのではと言われたそうです。この27連隊は、

日露戦争の天王山ともいえる厳寒の203高地において孤軍奮闘し、あの乃木將軍を泣かせたと作家の司馬遼太郎の小説にいくつか紹介されております。

ところで、このお化け屋敷のような仮校舎は、1階は寮として9室、2階は機械2、電気1の教室と自習室があり、教官室、事務所、食堂、便所は別棟にありました。ぼつんとある別棟の深夜のトイレは、とても怖かったですね。

それでは、時代は多少前後しますがエピソードを幾つか紹介しましょう。

1.『犬の根性』:学校ができて2年目、仮校舎の寮から1年生と少数の2年生が、そこから春光台の新校舎に通っていたときの事です。スキー場の下によく吠える犬がいました。下校途中の数名の一期生が、その犬を飼っている家の前を通りかかると、その犬は待ってましたとばかりに吠え出しました。いつもなら、生真面目な一期生は急いで寮に戻り、勉強に励むところですが、その日は違いました。せっかく頑張っただけで吠えてくれる使命感に燃えた犬のために、「はたして、どれだけ吠えられるものなのか、その根性を確かめてみよう」と、テストすることになったのです。(繋がれている)犬の前に立ち尽くすこと15分。犬は元気よく吠えています。20分、やや声のトーンが低くなってきました。25分、だいぶテンポが落ち、声がややかすれてきたので、石を近くに投げました。反射的に再び元気に吠え出しました。30分、また勢いが無くなってきたので石を投げ...。45分を過ぎると、さすがの犬もおとなしくなりました。声はかすれ、体力を使い果して、ただ水を飲んでいるだけです。石を投げても、恨めしそうにこちらを一瞥するだけです。「人の噂も75日」をフォローする「犬は吠えても45分」という見事な結果を得た貴重な実験でした。実験の参加者は、村上孝志・橋本郁雄・三浦敏章・椿原憲三・中村正人・高梨博義といったところだったと思います。

2.『旭函戦』:昨年は北海道で初めて「専体連」で野球部が全国優勝するという記すべき快挙がありました。実はこの「専体連」の発祥は昭和39年夏の函館高専との「旭函戦」というスポーツ競技の対抗戦だったのです。特に、旭川駅で函館高専の「イカ野郎ども」を迎え、平和通り(現在の買物公園)を昔ながらの紋付袴、高下駄、ひげ面のバンカラ応援団員達が市役所広場まで導き、そこで「やーやーやー」と源平さながらに両校の応援団同士が派手に交換した様子は当時の新聞にも大きく紹介されました。旭川の一般市民も何かと大勢集まり話題になったと記憶しています。その時の応援団長は、学生会長であり「柔道部」「エレキギター部」のリーダーで

もあった1期中村正人でした。副団長は2期の浅利茂で「エレキギター部」「ラグビー部」の創部にかかりました。

3.『エントツ男』：昭和38年夏、春光台に新校舎と明誠寮が出来たばかりの頃のある日曜の朝、原田準平校長は自宅の窓から自慢の高級双眼鏡でバードウォッチングを楽しんでおられました。すると早朝からボイラーのエントツの中程に人が動いているのが見えました。初めは工事の職人と思いましたが、よく見ると1期生の寮生であり騒ぎとなりました。

4.『オバQ野郎』：この頃皆が金欠病でしたが、ある時「K君」が寮生に『俺今度の日曜の昼に平和通りを臭いシーツを頭からかぶり端から端まで歩くから百円賭けよう』と持ちかけ、何人かが街角に検査役として立ち、見事に賭は成功しました。

5.『文通相手仲介業』：一期生の入学早々、旺文社「高校時代」の文通求む欄に出した奴がいて、北海道でかつ「ア」行の旭川と言うことでトップに載り、「高専」の物珍しさもあり何百通も届きました。写真入りは美人度により1000円から100円まであり、男性からは無料でした。ちなみに奴（1期機械 村上孝志）は、その中の一人と結婚し幸せな家庭を持っています。

6.『寝言のD君』：あの頃、よくお菓子やリンゴや下着など実家から差し入れがあり、同室者達と山分けする者、フトンの中でコソソリ一人占めする奴などいろいろでした。ある時「D君」の親から差し入れがありその中に上等な下駄がありました。同室の「U君」がその下駄を借りて散歩に出かけ、夕方事もあろうに下駄の歯をポッキ

リ折って帰ってきました。申し訳なさそうに謝ると「D君」は、「イイよ、イイよ」と許してくれました。早寝早起きの「D君」先に寝てしまいました。そのうち寝言が始まり皆が周りで聞いていると「チクショウ、チクショウ俺がまだ履いていないのに、、、」。これには「U君」ビックリ、これ以後彼は『寝言のD君』と呼ばれるようになりました。

7.有名人としては、玉置浩二率いる『安全地帯』のベスマンとして活躍した六土開正（10期化学）や、三浦和義のロス疑惑事件に巻き込まれマスコミをにぎわした元JALパーサー福原光治（7期機械）がいます。福原君は、現在東京の恵比寿駅周辺でレストランや飲食店多数を立派に経営しております。

あの頃はキューバ危機、東京オリンピック、ケネディ米大統領暗殺、ビートルズ来日などがありました。学生達と教職員が、一体となってグラウンドの石ころやガラスを拾ったり、学校や寮の運営や規則を練り上げたり、いろいろな運動部や文科系のクラブを文字どおりゼロから立ち上げたものです。我々から見れば今の学生諸君は、広大な校舎や最新鋭の設備が整った環境で誠に羨ましい限りです。何もかもゼロからの出発でしたが、どこかしら、のどかで遊び心と茶目っ気と、土壇場一発勝負の集中力が皆の取り柄だった様な気がしてなりません。

我々はどんなに時代が変わっても母校の存在があったればこそ、今の自分があるのだと自覚しつつ、今後更なる旭川高専の発展を念願しております。まさに母校は不滅です。



4500名の豊富な経験

同窓会名誉会長（学校長） 前 晋 爾

去る9月21日に催された旭川高専同窓会に出席させていただき、私として貴重な時間を過ごす事ができました。有り難うございました。

今年、旭川高専校長に着任しましたが、次第に同窓生の皆さんと直接会ってみたいという希望が強くなってきました。というのも、同窓生の皆さんが、旭川高専卒業生として社会の中で何を感じ、何を求め、旭川高専にたいしてどのような期待や不満を持っているのか、ぜひ知りたいという欲望が募ってきたからです。

このたび、「学校だより」79巻が発行されました。創立40周年記念特集号です。この特集号に、「創立40周年にあたって」という題で一文を書かせてもらいました。そのなかで、同窓会との関係について私の考えを述べた箇所があります。「学校だより」を読む機会が持てない方々が多数おられることと、以下に一部を再録いたします。

「このような困難な問題（地域産業界との連携の問題点について前段で記した）の解決に、極めて有力な千軍万馬の助人が存在していることに気がつきます。冒頭に

記した、優秀な4500名の卒業生の方々です。卒業生の方々には長い方で30年以上にわたる豊富な実戦経験を持っています。同窓生即ち同窓生の組織体である同窓会と旭川高専との関係を一層緊密なものとし、同窓生の皆さんの協力を得ながら、私達が抱える問題を解決していくことができるよう強く期待しています。」

旭川高専には11名の教官と1名の技官、計12名の同窓生が在籍しています。私は、同窓生と旭川高専の関係が健全かつ発展的であるよう強く願っていますが、両者の渡し役として、立田先生をはじめとする教職員同窓生の役割は極めて重要と考えています。同窓会のみなさんにおかれましても、どんな問題であろうと（例え、仕事上で直面している問題の解決であろうと）立田先生他の教職員同窓生に問題を投げかけられますようお願いいたします。

創立40周年経過しました。今後の旭川高専そして旭川、北海道、さらに日本の発展にとって、旭川高専の同窓生の力は、大変に大きなものです。これからも、お互い協力して頑張っていきましょう。

旭川高専の近況

旭川高専機械工学科 10M 立田 節雄

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。旭川高専に在職している卒業生の一人として、本校の近況を簡単にお知らせします。

ご存知のように、本校は国立工業高等専門学校第一期校として、昭和37年に設立されました。当初は機械工学科と電気工学科の二学科で構成されておりましたが、その後の学科の増設や改組により、現在では機械工学科、電気工学科、制御情報工学科、物質化学工学科の四学科（いずれも定員40名）体制となっております。平成11年には、工業技術の高度化に対応するため、道内の国立高専では初めて専攻科が設置されました。専攻科は修学年限が2年で、大学評価・学位授与機構の審査に合格すると、大学卒業者と同じく学士（工学）の学位が与えられ、大学院への進学も可能になります。本校の専攻科には、生産システム工学専攻（定員12名）と応用化学専攻（定員4名）の二専攻があり、前者は主として機械工学科、電気工学科、制御情報工学科の出身者が、後者は物質化学工学科の出身者が入学しております。昨年6月に専攻科の講義室や研究室などが入った専攻科棟が完成しました。なお、本科および専攻科の教育には、教官67名、技術専門職員・技官11名が携わっております。

今年は旭川高専が設立されてから40周年という節目の年にあたります。記念行事として、7月には、旭山動物園長の小菅正夫氏を講師として、創立40周年記念講演会が旭川市民文化会館で開催されました。年内には、40周年記念資料集も発刊される予定です。この40年間に本校から社会に巣立った卒業生・修了生は約4500名を超えます。最近の卒業後の進路は設立当初と大きく変わり、本科卒業生の4割から5割が国立大学工学部や高専専攻科に進学しております。ある高専のある学科では、昨年度就職した学生が1人であったなどという話を聞くこともあり、時代の変化を痛感するこの頃です。長引く不況の中で、どの教育機関も学生の就職先の確保に必死になっております。本校は幸にして、就職を希望する学生についてはほぼ100%の就職率を維持しております。これもひとえに、卒業された皆様方の社会での活躍が高く評価されていることの賜物であると、感謝している次第です。今後も、在校生にとって誇れる卒業生、そして卒業生にとって誇れる在校生（学校）であり続けることが重要であると考えております。

昨年4月から、老朽化した校舎の大改修をしております

したが、11月ようやく完成しました。昨年度は前庭に面した口の字型の校舎、そして今年度は化学棟の工事が行なわれました。教室の引越しや実験設備の移動で、学生も教官も非常に大変な思いをしましたが、校舎は見違えるように新しくなりました。狭かった教室も床面積が1.5倍となり、授業を受ける学生にとって好ましい環境となりました。30年前までは、学校の周囲の大部分が畑で、早朝には鶏の鳴き声が聞こえたものでした。現在では、春光台の小高い丘には住宅が立ち並び、学校の周囲の様子も大きく変わりました。

技術者として自ら社会に貢献でき、幸福な生活を営むことのできる卒業生を世に送り出すという学校の役割は、今も全く変わっておりません。ただし、世の中の流れとして、学校に求められるものが多岐にわたり、かつ高い到達度が求められています。

たとえば、地域企業との連帯を目指した技術開発相談室が昨年度から開設され、年間30件を超える技術相談や共同研究に応じています。また、卒業生に対して一定水準の工学教育を保証するため、JABEE（日本工業技術者認定機構）の認定校になるための準備が進められています。さらに、国立大学と同様に、国立高専も国立学校から独立行政法人へ移行する可能性があり、そのさいの諸問題についても検討されようとしています。何よりも困ったことに、「少子化の時代」では優秀な学生を数多く獲得することが困難になりつつあります。一般社会と同様に、学校の教職員も多忙になっており、残念ではありますが、教育に必要な良い意味での「のどかさ」や「ゆとり」が少なくなってきたように思えます。

本校には教職員として12名の卒業生が働いております。ご来校のさいには、是非とも声を掛けてください。また、こちらで出来ることがありましたらご連絡を頂きたいと思っております。こちらからも同窓会および同窓生の皆様にご協力お願いすることがあるかもしれません。その時はどうか宜しくお願い申し上げます。



平成14年度

同窓会理事会報告

平成14年度総会は初めて西日本支部が主管して、古都・京都で開催されました。旭川から6名、札幌から7名、東日本からも10名、西日本支部を合わせて28名の役員が参加して活発な議論が交わされました。(委任状46名)

1. 同窓会報

毎年発行し卒業生に無料配布する。

2. 名簿付き同窓会誌

概ね5年毎の発行とし、5年会費納入者以外は有料とする。

3. 理事の数

多すぎるという各地からの意見に対して、平成15年度の札幌総会が役員改選期に当たるので、それまでに各地区より理事候補者の名簿を再提出してもらい役員改選期に任命する。

4. 本部役員

会長、副会長、会計監査、各委員会副委員長とし、理事会への提案事項等を審議する。新たに会報委員長を副会長とし本部役員とする。

各委員会には副委員長を任命し、委員長を補佐する。旭川在住の理事は現在、各委員会に所属し、それぞれの会務を引続き担当してもらう。

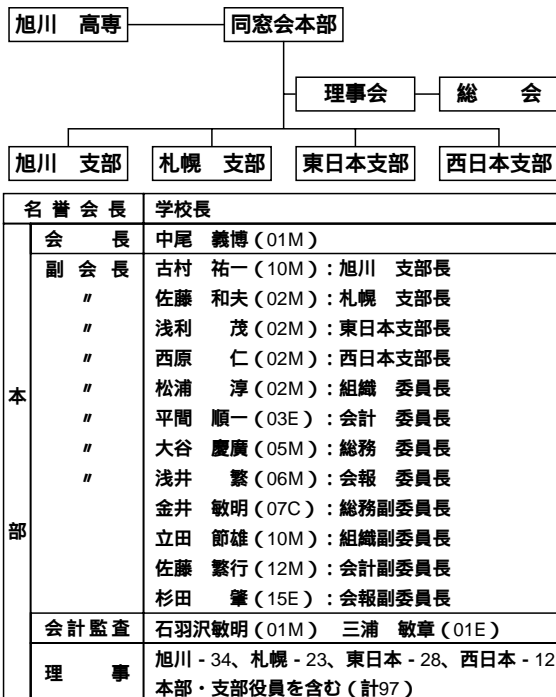
5. ホームページ

- ・現在各支部で、有志のボランティアでホームページを運営してもらっているが、同窓会のホームページについては、学生のコンベンなどを行い早急に立上げる。
- ・ホームページには、会員通信等を通じて、会合情報などきめ細かく情報を流したい。
- ・本部のホームページは、会報委員会が担当し、運営委員会を設けて各支部の運営管理者にその任に当たってもらう。

訃報

06C03 **大西勝久殿** H13.12.25 逝去
 14M24 **桑本諭一殿** H14.3.27 逝去
 13M44 **本間康夫殿** H14.11.29 逝去

旭川高専同窓会組織図



同窓会本部の会務

総会・理事会の召集事務、会計事務、同窓会報・名簿の発行
支部間の連絡調整、その他同窓会事業全般の計画・推進

アンケート調査報告

旭川市の要請により、平成14年1月に実施しました道外在住者の旭川高専同窓生に対するアンケート結果がまとまりました。旭川市では、旭川へのUターン創業の促進へ反映させたいとのことです。ご協力に感謝します。

- 1.対象者 1~30期 道外在宅者 1,391名
- 2.主な結果

Uターンの意思

回答者245名中、半数以上の129名がUターンの意思あり。

	あり	なし	回答者計
延べ回答者数	129	116	245
構 成 比	52.65%	47.35%	100.00%

Uターンの場所

回答者183名中、旭川への希望が約45%。

	旭 川	札幌	道内他都市	回答者計
延べ回答者数	82	73	28	183
構 成 比	44.81%	39.89%	15.30%	100.00%

起業の意思

回答者246名中、35%87名が起業意欲を持っており、既に開業した者も7名あり。

	意思あり	意思なし	開業済み	回答者計
延べ回答者数	87	152	7	246
構 成 比	35.37%	61.79%	2.85%	100.00%

Uターン創業について知りたい方は、旭川市役所 産業振興課まで
Tel.0166-26-1111 (代)

平成 13 年 度 事 業 報 告

日 時	事 業 名	内 容 ・ そ の 他
13. 3～10月	同窓会開催実行委員会	本部・旭川支部
13. 6～11月	名簿の整理・会費請求	未納会費、5年会費
13. 8～12月	同窓会誌編集委員会（会報）	記事の収集他
13. 9.22	同窓会総会・理事会・親睦ゴルフ	旭川・花月会館 旭川ゴルフ倶楽部
14. 1月	同窓会報発行	名簿付き
14. 3.15	卒業式・壮行会への参加	同窓会入会式開催・同窓会入会費徴収
14. 3.15	学校・同窓会連絡協議会	学校長・教務、学生、寮務主事・同窓会長・副会長・後援会長・事務部長
随 時	本部・各支部役員会、総会等	
学 校 関 係 行 事		
14. 3. 6	旭川高専 V S 地元企業懇談会	旭川在住会員多数参加
14. 6. 6	旭川高専産業技術振興会設立	旭川商工会議所、旭川高専
14. 6.27	旭川高専設立40周年記念講演会	講師 旭山動物園長 小菅正夫氏・一般市民にも開放

平成 13 年 度 決 算 報 告 並 び に 平 成 14 年 度 予 算 案

収 入 の 部

科 目	13年度予算	13年度決算	14年度予算	備 考（決算分）
前年度繰越金	2,096,243	2,096,243	8,627,337	
新入会員会費	1,500,000	915,000	1,500,000	15,000円×61人（卒業式当日分）
未納会員会費	150,000	223,000	300,000	15,000円×15人（手数料差引）
5 年 会 費	450,000	1,067,790	1,000,000	5、10、15、20、25期 180人×6,000（手数料差引）
雑 収 入	30,000	8,010,400	10,000	定期貯金を普通に振替（ペイオフ対策）・利息等
合 計	4,226,243	12,312,433	11,437,337	単年度収入 12,312,433 - 8,000,000 - 2,096,243 = 2,216,190

支 出 の 部

科 目	13年度予算	13年度決算	14年度予算	備 考
会 誌 発 行 費	2,400,000	2,123,527	660,000	名簿付会誌発行費、印刷費、送料（宅急便）
総会案内・調査費	370,000	516,345	520,000	前年度会員調査費 会員データ調査、総会案内
会 議 費 ・ 旅 費	670,000	371,862	500,000	理事会・幹事会会場費、支部への派遣旅費
慶 弔 費	30,000	4,651	20,000	会員弔電
事 務 費	50,000	65,351	50,000	会費請求費、事務用品費
学校行事補助	100,000	100,000	100,000	卒業生壮行会
学生会行事補助	50,000	0	50,000	
支 部 活 動 費	500,000	503,360	450,000	4支部分、今年度より振込み手数料加算
予 備 費	50,000	0	30,000	
支 出 合 計	4,220,000	3,685,096	2,380,000	

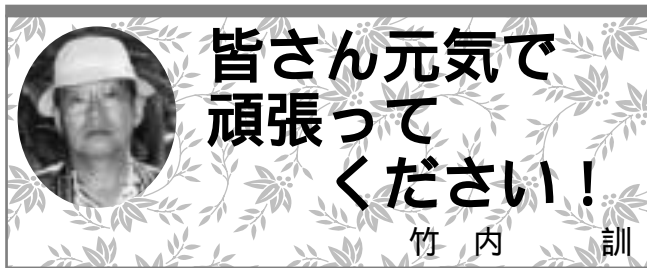
次年度繰越金	6,243	8,627,337	9,057,337	収支差額 12,312,433 - 3,685,096 = 8,627,337
--------	-------	-----------	-----------	---

同窓会財産目録（平成14年8月現在）

現 金 ・ 預 金	8,627,337	現金、普通預金、郵便振替口座（13年度末、同窓会財産計）
-----------	-----------	------------------------------

監査の結果、正当かつ正確に処理されていることを確認いたしました。

平成14年8月1日 会計監査 1M 石羽沢 敏明 1E 三浦 敏章



14年3月で定年退職しました。高専に赴任した時には28歳、それから35年を旭川高専で過ごしました。旭川にくる前には6年程栗山高校で教鞭を取っていたので、41年間英語を教えていたこととなります。お陰で、自分の英語はかなり上達したと思われませんが、私に英語を教わった皆さんの英語は今どうなっているのでしょうか。

校長室で、初代校長の原田準平氏から辞令を頂き、校内をあちこち連れ回され、色々な人達に紹介された翌日から、3Mの教室にいきなり乗り込み、授業を始めたのを覚えています。学生達は皆黒色の学生服を着て、どんな奴が来るのかと、座っていました。同じ年代の高校生よりは随分と大人じみている印象を受けました。おじさんみたいな学生も居ました。その後間もなく、ラグビー部の部員が来て、顧問になって欲しいと頼まれました。ラグビーの経験など全く無かったのですが、顧問になってくれる先生が他には居ないと言われ、引き受けたものの、その時には35年もラグビー部顧問を続けることになるとは思ってもいませんでした。

その後勿論担任、主事補、主事、そして主任の仕事を引き受け、学生達と接してきたのですが、本校での私の存在はやはり英語教師であり、ラグビー部顧問が中心でした。卒業生の皆さんもそのような存在として私を記憶していることでしょう。ただラグビー部顧問としては私は良い顧問ではなかったと思います。何故なら技術のコーチをすることはできなかったからです。私のできることはただ側について、見ていることだけでした。この事が函館高専に毎年負けた最大の原因だったのではないかと考えています。

しかし毎年部員達が「打倒函館」を目標に、練習に励んだのには事実でした。毎年2月、追い出しコンパの席で背広を着ている5年生部員を見て、私は本当の嬉しい気持ちで一杯になりました。練習のお陰で彼等は皆頑強な身体となり、不屈な闘争心を備えていたからです。そしてこの二つはこれからの活躍の場となる社会で彼等を支えてくれると確信していたからです。

今退職の挨拶文を書いている時、部活の事ばかりが思い出されます。部員以外の卒業生を憶えていないと言う訳ではありません。これまでの教師として、顧問としての自分を振り返ってみる時、まだまだ至らなかった点が沢山あることを痛感するのです。卒業生の皆さんに今改

めてお詫びを申し上げます。

今年の5年電気科が私が担任をした最後のクラスになりました。2年終了時、彼等から記念としてトレーニングウェアを頂きました。このウェアを着て、今も走っています。またラグビー部から寄せ書きをしてあるラグビーボールを頂きました。一人の部員が次のように書いてくれました。「竹内先生ほどラグビー部顧問が似合う人はいませんでした。お疲れさまでした。英語大好き。」身に余る褒め言葉であり、恐縮します。でも本当に嬉しく思います。それでは卒業生の皆さん、頑張ってください。



まずは、幹事役の西日本支部の皆様大変ご苦労様でした。始めて開催される西日本での同窓会、絶大なる歓迎をしていただき誠にありがとうございます。

我が母校の同窓会も4,000人余りの卒業生を送りながらも、まだまだ寂しい状態であるのは事実です。しかし数年前からの同窓会開催場所の持ち回りにより、その参加人員が4倍になったのも事実ではないでしょうか。

とかく同窓会って何の為にあるのとか理屈をこねる人もいるようです。誰が決めたか知らないけれど、市場主義の経済の中、利益にならない事をするのは馬鹿だとか、安い物を買わないとダメだとか言う言葉の為に無理して理屈をつける必要などあるでしょうか。

ごく一部の人間の利益の為に踊らされるなんてマッピラでございます。昔の無欲に戻って、友と語り、先輩・後輩と語り夢だけを求める空間があってもいいじゃないですか。それがまた今年は京都でした。わざわざ京都まで行って酒飲んで帰ってくるなんて出来ません。でも同窓会だからできるんじゃないですか。

実は私、今回の同窓会を大変楽しみにしておりまして、愛妻を連れて京都旅行をしたかったのです。しかし強行に断られしむしむ一人で行かたのではありませんが、旭川駅で先輩のAさんとHさんは奥様とご同伴ではありませんか。やっぱり無理にも連れてくれば良かったなと思いつつ、旅路の途中でAさんの奥様に「いいですよ、ご主人と一緒に。うちも一緒に行こうと誘ったんですけど、断られたんですよ」と寂しい気持ちを話したところ、A夫人「それはそうですよ。私も前の日まで行きたくないって言ってたんです」。つぎの言葉を失いました。うちだけでなかったんだ。

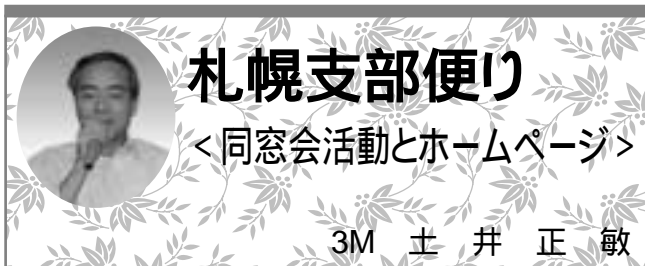
男50近くになって25年連れ添う妻に初めての恩返しと

思っかけた言葉も、私の愚妻には通じませんでした。これも勝手なオヤジの空想でした。(A夫人はご主人の思いの通じる良き理解者です)

でも、そんなダメオヤジが集まる同窓会でもいいじゃありませんか(失礼、私だけかも知れませんが)

来年は札幌です。ダメオヤジはどんどん参加してください。きっと同じ話に華が咲くでしょう。

かなわぬ夢でしたが、チャンスを与えてくれた西日本の皆様、本当にありがとうございました。



先日、同僚との酒席で懐古談になった。

・昔は自宅での通信は音響カプラーを使い速度は300bpsという超低速だったが昨今はメガの単位。スピード、品質ともに隔世の感があるよなっ！

・ドットプリンタでインクの擦れた文字をカタカタと！そんな代物が10万以上もしたのに今は2万円代で写真同様の高精彩なカラー印刷が出来る。感熱コピーは提案書以外使用禁止、字消版と修正液の時代が懐かしい！

技術革新のネタは枚挙に暇が無いがインターネットも然り、航空座席予約・口座残高照会等々は既に定着の感あり。

某社は化粧品を扱うので流石に綺麗などと言っていた広告的色彩のページは、商品の購入が出来る商用に変わった。農家の個人ページで農産物の通信販売も行われている。

そうした中、2001年の理事会で同窓会HP開設が議論された。私は時期尚早との意見であった。理由は二つ

- ・20数万円の初期費用に対し疑問が残ったこと
- ・HPの利用方法がハッキリと描けなかったことである。

札幌支部は2001年夏に支部HPを開設し、その後、理事会での討議内容を参考に思考錯誤を試みた。(札幌HPトップ右下「札幌HPが考えること」にメモ)2002年の理事会で再討議され本部HPの開設を決めた。私も無論賛成派である。賛成に変わった主な理由は

- ・支部HP運用を通して費用発生要因、市場価格が解った
- ・会報、名簿等を実験的に掲載してみて方向性が見えた

本部HPに向けての構想(案)を二つ紹介しておきます。現在、試行を考えている事は総会の講演記録の掲載です。総会に出席出来ない会員が大勢居られますが、総会・講演会の様子を知りたい方が相当数いると思っています。動画は容量的に無理としても音声だけでも配信できれば

と考えており、この会報が届く頃には掲載済みかも知れません。

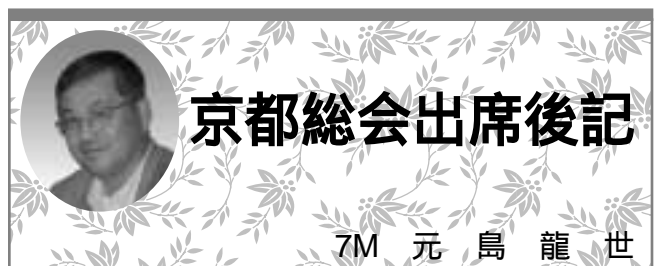
次に当初HPで否定的発言をし、理事会でも時期尚早の決議となった名簿のHP運用に触れておきます。本心は運用賛成派なのですが、機密保持に不安を持つ会員に自信を持って説明する材料が不足し表向きは否定して来ました。ここでは肯定的な発言をしておきます。最近改定した札幌HPの会員ページに実装した機能を要約すると

- ・ID、パスワード(PW)の登録制で入室を限定
(同窓会員の認証が問題ですがこれは人間系に依存)
- ・暗号化(PWは暗号しか保管しておらず管理者も不明なので問合せには再登録で対処して頂いた事もある)
- ・プログラム化(ソースを解読しないと情報の所在等が不明、且つソース管理は別設定のID、PW他でガード)
- ・公開可否設定(自身の項目毎に公開可否を自由設定可)
- ・表示方式(一覧形式の表示は止めて単項目表示とした。

検索に手間は掛かるが乱用を防止でき、私的には現在の紙の名簿よりも乱用防止では効果が高いと考えている。後は会員の良心的な情報の利用に依存すると考えている。

来春頃までには本部のHPが開設される予定ですが、低経費なマルチメディア会報、低経費で検索容易な名簿、そして沢山の方の近況情報等が掲載され有意義なHPに発展することを期待します。札幌HPはそのための実証実験的な役割の一旦を担えれば幸いと考えています。

最後に、掲示板等投稿が前提のページでは、見る・読むだけでなく、皆さんの積極的な投稿(季節毎の存在証明の一言でも!)でHPを盛り立てたいと願う次第です。



今回、京都の総会に出席し、卒業して初めて総会と言うものに出席させていただきました。冒頭、とてもお若い本間先生の心温まる講演を聴くに及び、懐かしさがしみじみとこみあげてまいりました。また、講演中暫らくして、ふと我に返り、周囲を伺うと知らない人の間に混じってすごく懐かしい顔に、主に白髪などの年寄り色の濃いメイクをした顔が立ち並び、昔日の記憶を一気に蘇らせることができました。ただ、ワタクシ7期でありますので、理論上、3期の方から11期の方まで、都合9世代のお顔をご拝顔しているにもかかわらずなかなか顔と名前が一致できなかったのはちょっとガッカリでした。

いよいよ大宴会が開始された折、席上、とてもお若い仲島先生にも、約30年ぶりにお会いし、歓談することが

でき、とてもハッピーな気分になりました。お会いした瞬間、思わず「ご迷惑をお掛けしました」と言ってしまったのは多分、学生時分、迷惑を掛けてしまったことを瞬時思い出したのだと思います。さて、会場では、周囲から北海道系関西人の方々の「よぉ、たいしょう!」、
「 します〜 」と言った、流暢な関西訛りを耳にして、ちょっと驚いてしまいました。大阪の八尾出身のスタイル抜群の綺麗な「おねえさん」の唄を聞きながら、飲むほどに酔いがまわってきてご機嫌になってしまいました。一応、酒は全種類いただきました。確か「八尾」は勝新太郎主演、田宮二郎共演の映画「悪名」シリーズで、勝新太郎の配役名が「八尾の浅吉親分」とか言っていた「八尾」だと思います。

ところで、名刺の裏に綺麗な「おねえさん」のサインをいただいたのはワタクシだけでしょうか。このサイン入り名刺は、私事で恐縮ですが、家庭崩壊の要因になる恐れがあることに気付き、翌日、皆様がよくご存知のある方にお渡ししました。

翌朝は、諸先輩とご一緒に、大阪府にある、丸紅系のベニーカントリーでゴルフでしたが、朝、ホテルのロビーから出発時、わざわざ、本間先生にお見送りいただき、感謝感激でした。京都から高槻まで電車で移動し、その後クラブバスで移動した目的地は、日本海に突き抜けんばかり(のような)、山奥に入ったロケーションでした。前夜の二日酔いでスコアを乱した方もおられたかも知れませんが、ワタクシは二日酔いに係わりなくダントツの悪スコアで終わってしまいました。ただ、幸か不幸か乗用カートが無く、オール歩きでとってもいい運動になりました。



本年度(2002年)に行われた同窓会に出席しました。東日本支部のホームページを管理しているということで、東日本支部の代表として派遣していただきました。(このため、この文章を書くことになりました。...タダより高いものは...)

9月21日(土)午後3時からの同窓会理事会に出席するために、昼前に東京出発の新幹線に乗って2時過ぎには京都に到着しました。3連休の初日だったこともあり、車内は家族連れで結構混んでいました。久しぶりに新幹線に乗ったためか、途中で右側に見える富士山を見過

してしまいました。

京都駅のすぐそばの「ホテル京阪」で3時から始まった理事会では、ホームページを利用した会報の発行について等の議題があり、東日本支部ホームページの管理を預かるものとして、大先輩である土井先輩や源津先輩と一緒にレベルで意見を求められて本当にうれしかったです。名簿の発行には賛否があり、パスワード等のセキュリティでの管理は必要だと思います。そのあとに行われた同窓会の本間先生の講演と懇親会については他の人が書かれると思いますのでここでは割愛させていただきます。

遠路はるばる旭川から参加された旭川支部メンバーの長谷川悟君と会うのは卒業以来で、本当に懐かしかったです。懇親会では同期4人(伊藤誠剛君・吉崎聡君)が同じテーブルになり、懇親会から祇園での2次会もずっと一緒に学生時代の延長のようになりました。ホームページに掲載した写真(秘密の部屋)を見られた方は、はめを外して騒ぎすぎにあきれていたのではないのでしょうか。20年以上前にいきなりタイムスリップして学生時代にサンロクで騒いでいた頃に戻ったようでした。

同窓会の出席者のうちで我々世代(14・15期)が最年少でした。後輩の出席の促進が我々世代の今後のテーマですね。

次の関東での同窓会は、来年の11月末頃に5年に一度行われる『熱海忘年会』です。東日本支部HP (<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/3881/>)でも準備状況をご報告していきたいと思います。皆さん来年のスケジュールに入れておいてください。

私の近況として、大きくは二つの活動を行っています。一つは「ネイチャーゲーム」の指導員をしており、地域の「うらわネイチャーゲームの会」に所属しています。年に4回ほど地域の人たちと一緒にネイチャーゲームを行っています。最近は学校週休2日の関連でネイチャーゲームを依頼されることが増えました。詳しくは「うらわネイチャーゲームの会」のホームページをご覧ください。

(<http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/4155/>)

今回は冬の会として、『上野動物園』を会場として平成15年2月16日(日)に行います。ネイチャーゲームに関心のある方は参加の連絡をください。地域外の人でも参加歓迎いたします。

もう一つの活動としては、オートキャンプ協会の指導員をしており、オートキャンプの普及活動を行っています。詳しくは「オートキャンプ指導者」のホームページをご覧ください。

(<http://www.geocities.co.jp/Outdoors-Mountain/5952/>)